

図説

天正遣欧使節



An Illustrated History of the
Tensho Embassy to Europe

監修 高祖敏明

Supervisor: Koso Toshiaki

編集 伊藤玄二郎

Editor: Ito Genjiro

執筆 山口道孝

Writer: Yamaguchi Michitaka



かまくら春秋社

Kamakura Shunju-sha

およそ450年前、命をかけて航海に出た4人の少年がいた。ヨーロッパで熱狂的な歓迎を受け、日本旋風を巻き起こした天正遣欧使節。ローマ教皇との謁見、スペイン国王フェリーペ2世との対面を果たした彼らは世界の舞台で何を見たのか。8年に及ぶ壮大な旅の軌跡を豊富な写真と共に鮮やかに描き出した一冊。

『図説 天正遣欧使節』とは

天正遣欧使節は九州のキリシタン大名の名代としてヨーロッパに派遣された4人の少年の外交使節です。この使節団は、イエズス会の巡察師アレッサンドロ・ヴァリニャーノ神父の企画、指導のもと、日本とヨーロッパとの関係を深めるために計画されました。

天正10年(1582年)に長崎を出港した4人の少年は、マカオ、インド、アフリカを経由して2年に渡る艱難辛苦の末にようやくリスボンに到着します。さらにポルトガル、スペインを経て、イタリアに入りローマ教皇グレゴリウス13世に謁見します。帰路は、再び大西洋、インド洋を経て、長崎に戻ったのは8年後の1590年でした。

命を顧みず海を渡った少年たちの心のなかにあったのは何であったのか。彼らが残した日記や覚書の資料をもとに紐解きます。本書では、彼らが歩んだ過酷かつ感動に満ちた道のりを、500余点に及ぶ美しい画像とともにたどります。当時の地図、書簡、肖像画、訪問先の壮麗な宮殿や教会——彼らが見た世界、感じた文化、そして残した足跡が今、鮮やかに蘇ります。

少年たちの足跡の全記録の集大成として、後世に残す一冊としました。本書は日本語・英語を併記し、世界の研究機関にも届けます。



イタリア人巡察師 アレッサンドロ・ヴァリニャーノ



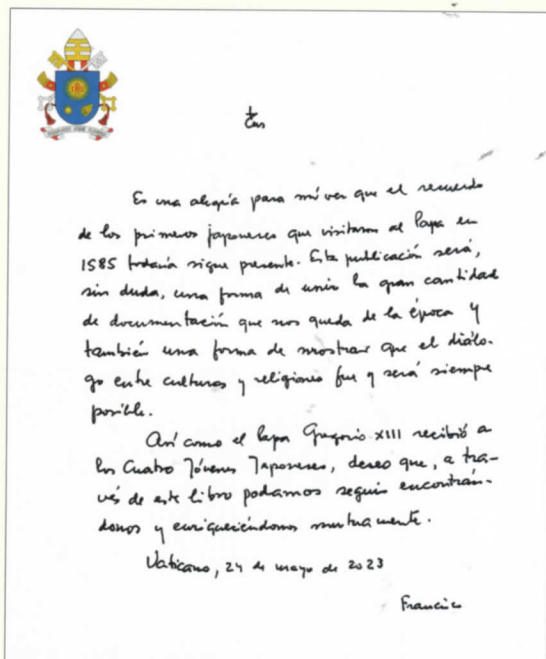
豊臣秀吉の前で演奏した西洋古楽器(複製)

天正遣欧使節が持ち帰った
グーテンベルク式印刷機(復元)



世界地図 天正遣欧使節の足跡

刊行に寄せて



教皇フランシスコの直筆のメッセージ



IHS

1585年にローマ教皇が謁見した最初の日本人使節についての記憶が、昔も今も大切にされていることをうれしく思います。今回のプロジェクトは、当時から今日に至るまでの、現存する豊富な資料を収集する絶好の機会となるでしょうし、文化間の交流と宗教間の対話が、今もいつも実現可能であることを示す出版物となることでしょう。

当時のグレゴリオXIII世教皇が日本から訪れた4少年を受け入れ、豊かさを高めたように、この書物が互いの出会いを通して、さらなる豊かさへと導く道具となりますように。

ヴァチカンにて、2023年5月24日

フランシスコ

In 1585, envoys representing the first mission from Japan were received in audience by His Holiness the Pope, and it is indeed a matter of joy for us that memories of that encounter are still cherished highly. This project will serve as a superb occasion to amass a wealth of extant material dating from those days, and the forthcoming publication will attest to the fact that inter-cultural exchange and inter-faith dialogue are always feasible. This has been the case in the past, it is the case now, and it will be so in the years to come.

As His Holiness Pope Gregory XIII of that era welcomed and enhanced the four youths hailing from Japan, may this book serve as a pathway to further enhancement through our mutual encounters with each other.

Francisco

Vatican
May 24, 2023

天正遣欧使節



伊東マンショ



千々石ミゲル



原マルティノ



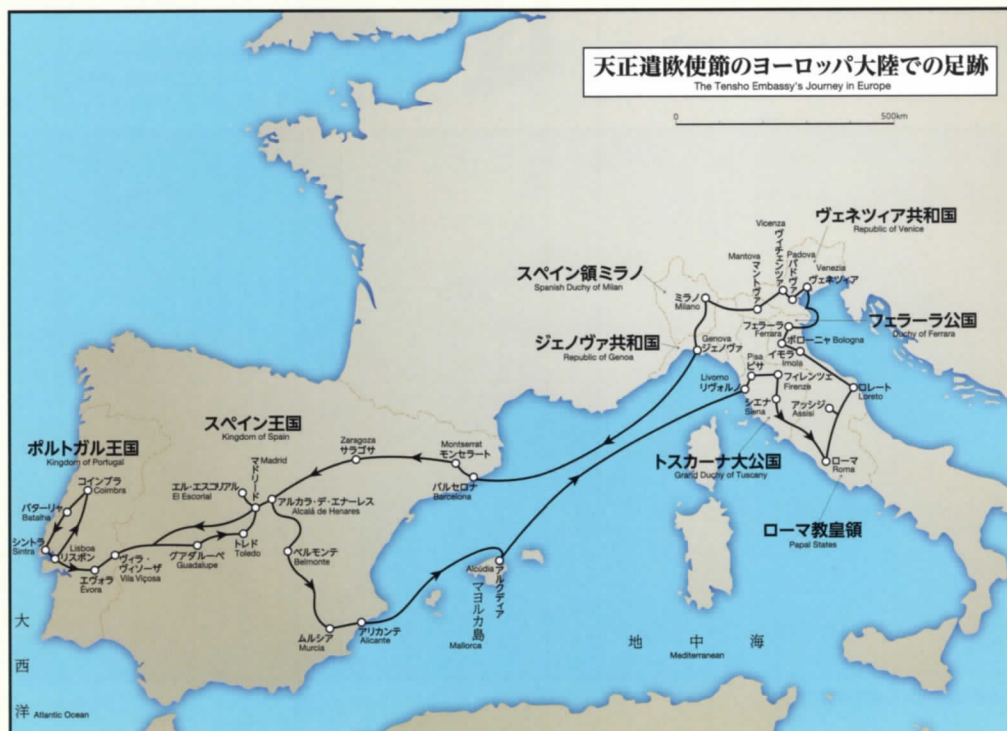
中浦ジュリアン

天正遣欧使節の4人は、有馬セミナリヨ（神学を学ぶ初等教育機関）で学んでいた10代前半の少年たちでした。ヴァリニャーノ神父は日本の少年たちに知性があり礼節があることを絶賛し、彼らを学校の「初穂」と呼び喜びました。

400年前、ヨーロッパへの航海は大変な危険を伴うものでした。家族に反対されながら、4人は8年に及ぶ冒険の旅に出ることを決めたのです。

伊東マンショはキリシタン大名大友宗麟に繋がる家系で、正使として派遣されます。千々石ミゲルはキリシタン大名有馬晴信の従弟で、大村純忠の甥にあたり同じく正使として選ばれます。原マルティノは大村藩波佐見城主の息子、中浦ジュリアンは大村藩中浦城主の息子です。マルティノとジュリアンは副使として選ばれました。

天正遣欧使節団の目的は、日本とヨーロッパとの貿易促進、キリスト教の宣教支援、さらには日本の文化を紹介することでした。帰国後、日本のキリスト教への弾圧が強化され、彼らの活動は困難を迎えることになりましたが、天正遣欧使節が持ち帰った西洋の文化は日本と西洋との重要な接点となり、歴史的にも大きな意味を持っています。



天正遣欧使節の足跡

1582年 長崎を出帆 ▶▶

ヨーロッパを目指して ▶▶ アジア・アフリカ



〈マカオ 聖パウロ天主堂〉マカオに往路、復路で滞在。
当時は壮麗な大聖堂があった。



〈セント・ヘレナ島〉アフリカ南西部沖の島。
ヨーロッパへの最後の寄港地。

ヨーロッパに上陸 ▶▶ ポルトガル



〈リスボン サン・ロケ教会〉
ヨーロッパの起点。サン・ロケ教会に往路、復路で滞在する。



〈ヴィラ・ヴィンソーザ ブラガンサ公爵邸〉
ブラガンサ公爵邸に滞在。公爵夫人カタリーナは
使節たちを息子のような愛情をもって迎えた。



カタリーナ公爵夫人

▶▶ スペイン



〈エヴォラ大聖堂 パイプオルガン〉
伊東マンショと千々石ミゲルが演奏した。



〈グアダルーペ王立修道院〉
スペインで最初に訪れた聖地。



〈スペイン国王 フェリーペ2世〉
使節たちはスペイン国王との謁見を果たす。

ヨーロッパ大陸を巡る ▶ イタリア



〈ピサ 大聖堂と斜塔〉ピサのメディチ家の公爵の宮殿に滞在。



〈ビアンカ・カッペロ公爵夫人〉
宮殿の舞踏会で伊東マンショと踊った。

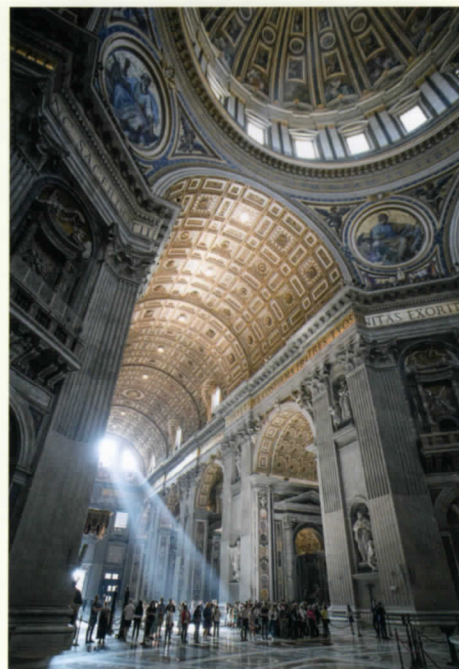


〈カブラローラ ファルネーゼ宮殿「地図の間」〉16世紀後半の世界会議の場であった。
しばしば教皇がここに来て会議をしたことが記録されている。

▶ 1585年 ローマ教皇に謁見



〈ヴァチカン サン・ピエトロ大聖堂〉
使節たちは華やかな行列で教皇宮殿があるサン・ピエトロ広場に向かう。窓から人々が歓声をあげて行列を迎えた。



〈壮麗なサン・ピエトロ大聖堂の内部〉



〈ローマ教皇 グレゴリウス 13 世肖像画〉



〈グレゴリウス 13 世が天正使節と謁見する様子を描いた天井フレスコ画〉
マンショとみられる少年の額に教皇が口づけする様子が描かれている。

ローマを後にして▶

〈ジェンティーレ・ペッリーニ
「サン・マルコ広場の行列」
1496年頃制作〉

祝砲と歓声に包まれて使節はヴェネツィアに入った。聖マルコ祭の行列を少年たちは楽しんだ。



ティントレット作
「伊東マンショ肖像画」
ヴェネツィアで描かれた。



▶▶ スペイン

〈モンセラート修道院〉
使節たちは聖なる山モンセラートにのぼり、岩山を背に建つ教会で祈った。



〈コインブラ大学のジョアニーナ図書館〉金泥細工で美しく装飾された大学図書館。

▶▶ ポルトガル



〈サン・ジョルジュ城から見たリスボンの町並み〉

ヨーロッパから日本へ▶▶ アフリカ・アジア

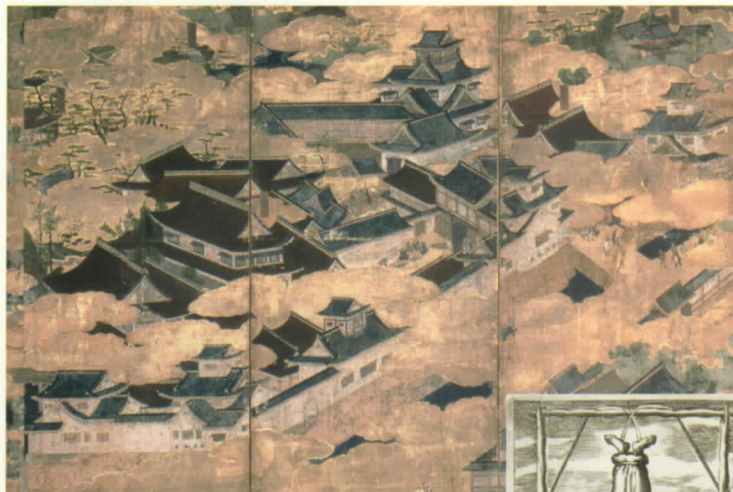


〈アフリカ モザンビーク島〉日本への帰路上陸した。



〈インド ゴア ボン・ジェズ教会〉
教会には聖フランシスコ・ザビエルの聖遺骸が安置されている。
使節たちはヴァリニャーノ神父と再会し互いに抱き合う。

▶▶ 1590年 長崎に帰港



〈聚楽第図屏風〉
長崎に帰港した使節たちは、20代前半の青年に成長していた。
帰国後、キリスト教への弾圧が続く中、使節たちは豊臣秀吉を前にして聚楽第で演奏会を行う。



〈中浦ジュリアン穴吊り拷問図〉
中浦ジュリアンは長崎の西坂で殉教する。

命をかけた少年たちの遥かなる旅路
彼らが歩んだ過酷かつ感動に満ちた道のを
500余点の美しい画像とともにたどります



2024年11月30日、ローマ教皇フランシスコに見本本を贈呈。
右から二人目：監修の高祖敏明 右：編集人の伊藤玄二郎

図説 天正遣欧使節

An Illustrated History of the
Tensho Embassy to Europe

監修 高祖敏明 発行・編集人 伊藤玄二郎

執筆 高祖敏明 伊藤玄二郎 山口道孝 平田豊弘 坪根伸也 他

発行 かまくら春秋社

◆ 本の内容

発刊に寄せて ローマ教皇フランシスコ

総論 高祖敏明

天正遣欧使節の九州

ヨーロッパを目指して アジア・アフリカ

ヨーロッパの窓口 ポルトガル

ヨーロッパ大陸を巡る スペイン

ヨーロッパ大陸を巡る イタリア

ローマを後にした使節たちの

イタリア・スペイン・ポルトガル

ヨーロッパから日本へ アフリカ・アジア

帰国後の天正遣欧使節

◆ 造本・体裁

菊倍判 (302×215mm) ・上製 392頁 オールカラー

日本語・英語併記

2025年7月刊行

定価：38,500円 (本体35,000円+税10%)

限定1,000部 番号入り

かまくら春秋社

〒248-0006 神奈川県鎌倉市小町2-14-7

TEL.0467-25-2864 FAX.0467-60-1205

E-mail: ks021@kamashun.co.jp

お申込み・お問い合わせは、かまくら春秋社まで。TEL.0467-25-2864 FAX.0467-60-1205 E-mail: ks021@kamashun.co.jp

図説 天正遣欧使節

An Illustrated History of the Tensho Embassy to Europe

2025年7月刊行

定価：38,500円

(本体35,000円+税10%)

冊 注文します

ご住所

お名前

お電話

※お客様の住所、氏名などの個人情報は、お申し込みの書籍をお届けするために利用させていただきます。その他の目的では利用しません。ご承知のうえ、ご記入ください。

申込書